

# きょうさいだより

*Sasebo Kyosai Hospital Communication Paper*



「春の渡り」コマドリ。春の渡りで長崎に上陸したときに見ることができます。大きな声で「ヒン カラララ、」とさえずります。馬（駒）のいななき声に似ています。

撮影：脳神経外科 山川 勇造

## INDEX

- |                       |   |                    |   |
|-----------------------|---|--------------------|---|
| ●ごあいさつ 院長 井口 東郎 ..... | ① | ●市民公開講座 開催報告 ..... | ⑤ |
| ●新採用医師の紹介 .....       | ② | ●地域医療連携室より .....   | ⑥ |
| ●臨床研修・実習等の実績報告        |   | ●趣味を語る バードウォッチング   |   |
| ●病院敷地内全面禁煙について        |   | ●編集後記              |   |
| ●診療活動の現況 .....        | ③ | ●外来診療担当表 .....     | ⑦ |
| — 産婦人科 30年を振り返って —    |   |                    |   |

# ごあいさつ

院長 井口 東郎



木寺院長の後任として2016年4月1日付けで院長に就任致しましたので、自己紹介を兼ねて就任のご挨拶を申し上げます。

私はこの30年近くに亘ってがんセンター（九州がんセンター 1986～2007、四国がんセンター 2007～2015）に身を置き、がん一筋に仕事をしてきたのですが、取り分け四国がんセンター時代は最も難治がんと言われる膵臓がんの診療に心血を注いで参りました。私自身の中ではそのまま“がん一筋”で現役を終える予定でしたが、予期せぬ“天の声”（？）が舞い降りて来まして、九州大学の後押しもあり、1年前に副院長として佐世保共済病院に着任致しました。佐世保共済病院は、これまでのがん専門病院とは違う、いわゆる総合病院ですので、私にとりましては未知の領域となります。当院のここ10年ほどは医師不足による診療科の閉鎖・縮小を余儀なくされたと聞いておりますが、木寺前院長を始めとした全職員の頑張りで何とか持ちこたえてきた、と言うのが実情のようです。ここに来て、将来的な医師確保に繋がる長崎大学からの臨床実習がスタートし、また、常勤医も徐々にではありますが増加傾向が見られ、明るい話題も聞こえてくるようになりました。この1年間は私なりに病院が抱える問題点、佐世保・県北医療圏における当院の位置づけ、等々、様々な角度から病院を眺めて参りましたが、その全体像を捉えるには1年といった期間はあまりにも短く、今後も継続して各界・各部署からの意見を集約して、病院の将来ビジョン策定に繋げたいと思っています。

さて、医療を取り巻く環境は年々厳しくなっており、本年度も診療報酬改定が実施され、病院経営にとっては正念場となります。今後は、県北医療圏における医療需要を勘案して当院の立つ位置を自ら決めねばなりません。佐世保市の基幹病院として横一線に並ぶのではなく、当院の診療機能の特徴を前面に打ち出して、他の基幹病院との役割分担を図って行きたいと思っています。健全な病院経営体制を確立するためには難しい舵取りが求められていますが、院長として手綱を引き締めて事に臨む所存であります。また、今後の医療政策を鑑みた場合に、地域で必要とされる医療を提供するために基幹病院のひとつとして何をすべきか？といった視点から将来構想を練ってゆかねばならず、この目的を達成するには地域連携が要であり、佐世保市及び近隣地区医師会との協調関係を維持・発展させることが最も重要と考えております。佐世保共済病院では、今後、地域連携室に人材を手厚く配置し、その機能を拡充させる予定ですので、地域の病院ならびに開業の先生方には今後ともよろしくご協力・ご支援のほど、お願い申し上げます。

当院は100年の歴史を誇る佐世保市の基幹病院ではありますが、医療を取り巻く環境が大きく変貌しつつある昨今、伝統の上に胡座をかくのではなく、新しい時代の医療に対応した変革を行ってゆく所存であります。今後も県北医療圏における基幹病院として地域医療に貢献してゆく所存ですので、4月1日からは新体制での船出となりますが、地域の皆様にはよろしくお願い致します。

## ■プロフィール

昭和50年	九州大学医学部 卒業	平成6年	国立病院九州がんセンター臨床研究部 内科医長
昭和56年	九州大学医学部博士課程 修了	平成15年	九州大学薬学部 非常勤講師
昭和57年	カナダ留学（モントリオール臨床医学研究所、リサーチフェロー）	平成16年	九州がんセンター 臨床研究部腫瘍動態研究室 室長
職歴		平成17年	四国がんセンター 臨床研究部臨床研究部長
昭和50年	九州大学医学部附属病院 研修医（第3内科入局）	平成23年	四国がんセンター 臨床研究センター臨床研究センター長
昭和56年	九州労災病院 内科医師	平成27年	佐世保共済病院 副院長
昭和59年	社会保険筑豊病院 内科医師	平成28年	佐世保共済病院 院長
昭和61年	国立病院九州がんセンター臨床研究部 内科医師		
平成元年	〃 生化学研究室 室長		
平成6年	九州大学医学部 非常勤講師		

## 新採用医師の紹介

小児科部長 上玉利 彰



出身地 熊本県熊本市  
 出身大学 長崎大学医学部  
 卒業年度 昭和60年  
 主な職歴  
 平成10年 長崎大学医学部附属病院  
 平成17年 健康保険諫早総合病院  
 平成20年 佐世保市立総合病院

平成24年 長崎大学病院  
 平成25年 みさかえの園総合発達医療福祉センターむつみの家  
 専門領域 小児血液疾患・小児がん  
 所属学会 日本小児科学会／日本小児血液・がん学会  
 ／日本血液学会／日本小児感染症学会

はじめまして、小児科の上玉利（かみたまり）です。4年ぶりに佐世保で勤務することになりました。小児血液・小児がんを専門としています。病気のこどもたちを診ていて感じることは、つらいときでもみんな前向きにがんばってること、元気になったときの笑顔が素敵だなあ、ということ。いつもこどもたちからパワーをもらっています。少しでもそんなこどもたちの力になりたいと思います。モットーは「楽しくなければ小児科じゃない」。よろしくお願ひします。

## 臨床研修・実習等の実績報告 研修担当 総務課 山口 雅子

平成27年度より医学部生の実習や研修医の受け入れを積極的に始めました。

消化器内科実習では講義や検査見学、地域病院実習では外来実習や手術室見学、さらには病棟実習やコメディカル実習など、職種の垣根を超えた教育に取り組んでいます。また、27年度より、長崎大学病院初期研修の協力病院として研修医の受け入れを開始しました。

28年度はさらに、1年目初期研修医の地域研修（2名）、2年目初期研修医の産婦人科研修の受け入れが決まっています。今後も継続して臨床研修に力を入れ、当院の指導医の熱心な教育やチームワークの良さを

アピールしていきますので、よろしくお願ひします。

### ● 27年度よりスタートした主な臨床研修・実習受け入れ

長崎大学医学部生 消化器内科実習	宿輪内視鏡センター長による講義・実習（53名）
長崎大学医学部生 地域病院実習	多職種による地域病院のチーム医療を体験（2名）
医療研修員（中国瀋陽市の医師）	佐世保市と瀋陽市の国際協力事業（産婦人科医1名）
長崎大学病院初期研修医	1年目初期研修医の麻酔科研修（1名）



学生への講義を行う宿輪センター長



手術室にて研修中の笹村初期研修医

## 病院敷地内全面禁煙について

総務課 森木 達彦

病院は患者さんとそのご家族や地域の住民の健康を守ることを使命としています。喫煙は、がん以外にも循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、歯周病、胎児の成長障害、等のさまざまな健康障害の原因になっており、受動喫煙も健康障害を引き起こすことが科学的根拠をもって示されています。よって、病院が喫煙の推進にも繋がる喫煙場所を提供することは本来の使命に反しており、国内ではほとんどの医療機関が全面禁煙に移行しつつあります。このような状況を鑑み、当院におきましても平成28年4月1日より敷地内全面禁煙に移行しますのでご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。





産婦人科  
木寺 義郎（前院長）

## 【はじめに】

本年3月に病院長を任期満了で退任致しました。皆様のご支援、ご協力のお陰であると本欄を借りて感謝申し上げます。病院長として8年間の任期中における沿革を述べることも大事なことはと思いますが、これからの医療を考えると課題が山積しており過去を振り返ってばかりもおれない心境です。当院が取り組んでいる事業のひとつに周産期医療があります。私も当院に入職以来、30年余り携わってきた経緯があり、佐世保・長崎県北地域の産科を中心とした周産期医療について現状や当院の課題を述べさせて頂いて、退任の挨拶に代えさせていただきます。

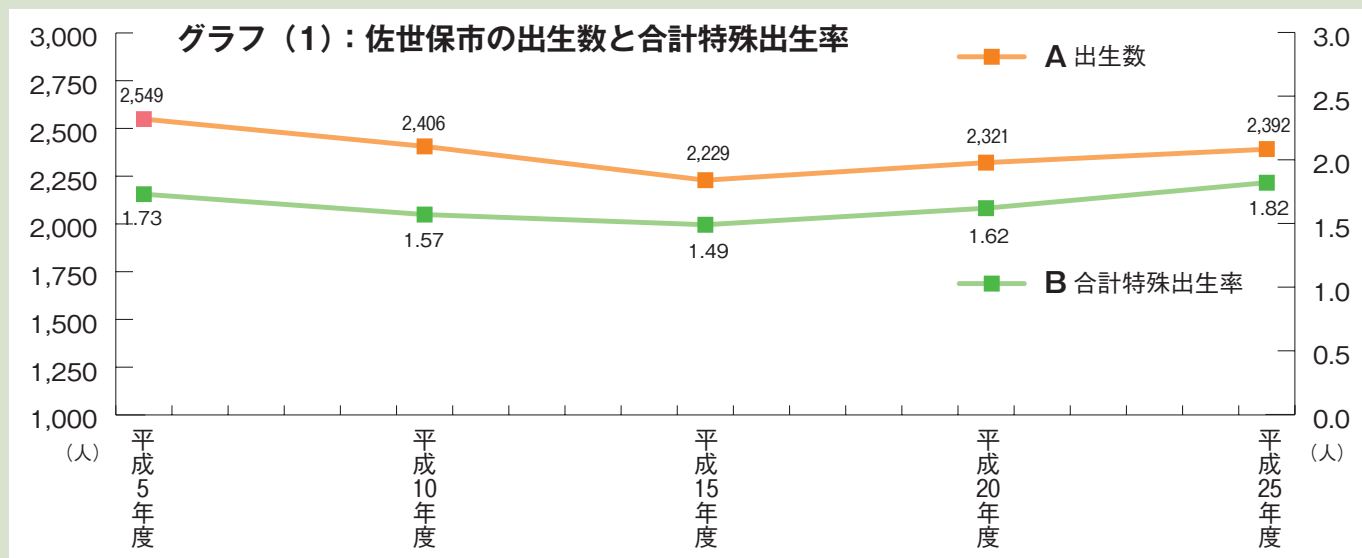
## 【佐世保市の出生数】

まずは出生数ですが、数年前から日本の年間の出生数が100万人を切ることは時間の問題と認識しておりましたが、2015年の出生数も辛うじて100万人を8千人超えて前年よ

り僅かに増加し、何とか100万人を保っています。佐世保市においても漸減傾向はあるものの、この十数年間は2300人ほどであり変わっていません（グラフ1A）。また出生数と分娩件数とは一致しません。これは市外からの分娩や都会からの里帰り出産が加わるためであり、佐世保市の昨今の分娩件数は3100件程度と推定されています。

## 【合計特殊出生率について】

母性や保育に関する住民の意識を評価するのに合計特殊出生率という視点があると思います。これは一人の女性が一生の間に産む子供の平均数ですが、人口を維持するためには2.07が境目とされています。2013年の全国平均は1.43でしたが、佐世保市では1.82と欧米並の高い数字でした（グラフ1B）。少子化問題に取り組んで1.99を示すまでになったフランスのように産み育てる社会保障やインフラが充実して上昇してきたのであれば素晴らしいことですが、佐世保市の場合は自衛隊員の転入など地域の特殊性が寄与している可能性もあります。実態を正しく把握するた



めには行政機関による分析が必要かもしれませんが、明るさを齎す傾向であることには間違いなく、少なくとも妊婦さんが受療する医療環境は損なわれないように関係者には不断の努力が求められると思います。

### 【当地域における周産期医療の課題】

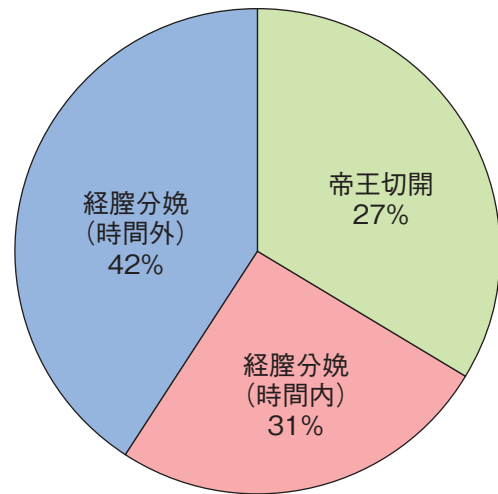
改めて佐世保・長崎県北における分娩件数を見直しますと市内での3100件に加えて県北では300件ほどあり、合計3400件ほどと推定されています。分娩を受け入れる医療機関は合計11でありますので、1医療機関当たりの年間分娩件数は凡そ300件でありました。しかし本年より県北の診療所の1つがクリニック主体の診療に切り替えて分娩の取り扱いを休止されました。今後も他の医療機関で同様の動きが出てこないとは限りません。このような観点から当院でも分娩の受入を増やせる方策を考えることが必要になってくると思われま

す。当院の分娩における対応状況を示します(グラフ2)。帝王切開率27%、時間外の経膣分娩42%というデータにも示されるように分娩は予定どおりに進行しないで夜間になることが多く、かつ急遂分娩が必要になることも稀ではありません。また昨年は母体搬送を週1例平均で受け入れて対応しています。このように救急対応を求められるストレスの多い診療科であるために、これから産科を専攻する医師が増加することはあまり期待できません。

### 【おわりに】

周産期医療は産科医だけではなく小児科医

グラフ(2)：分娩の対応状況 (平成26年度)



をはじめ麻酔科医、内科医など全科的なバックアップがあってこそスムーズな運営ができる事業です。しかし、地域医療構想の病床規制や診療報酬改定などで当院も厳しい運営を迫られることになりそうです。その結果、関連診療科の運営に問題が生じるような事態にでも陥れば、産科診療にも直ちに影響が及ぶことでしょう。最悪の事態を回避するためにわれわれ自身が努力することは当然ではありますが、改めて皆様のご支援とご協力をお願いして、周産期医療をはじめとする地域医療に明るい展望が拓けることを祈念して退任の挨拶に代えさせていただきます。



木寺前院長(中央右)と産婦人科、小児科スタッフ

## 市民公開講座 開催報告

整形外科部長 水城 安尋

平成 28 年 2 月 4 日（木）に当院大講堂において、九州大学大学院 医学研究院 整形外科 岩本幸英 教授をお招きして、ロコモティブシンドロームの最新情報についてご講演いただきました。

日本人の平均寿命は年々延びておりますが、ロコモティブシンドローム（通称ロコモ）が進行すると要介護や寝たきりになるリスクが高くなり、いつまでも自立した生き活きとした生活を送るためには、運動器の健康を維持する必要があります。今回の講演では、ご自宅で簡単にできるロコモチェックの方法や暮らしの中にとり入れる運動習慣などをわかりやすく解説いただきました。

足、腰、膝などの運動器に違和感がある方など、ロコモティブシンドロームの疑いを感じられる場合は、当院 整形外科にご相談下さい。

※初診で紹介状が無い場合は、通常の保険診療費の他に保険外併用療養費が発生しますのでご了承下さい。



## 市民公開講座 開催報告

泌尿器科部長 江口 二郎

3 月 3 日（木）に当院大講堂において、佐賀大学医学部 附属病院 泌尿器科 野口 満 教授をお招きして『メタボと前立腺がん』について講演いただきました。

野口教授は平成 3 年から 4 年間当院にて勤務され、座長の山田潤前副院長、そして職員にとってゆかりのある先生です。

さて、現代の日本は、飽食と運動不足によるメタボリック症候群の増加が問題視されています。今回の講演を通じて、このメタボリック症候群と、男性の関心が高い前立腺がん、多くの方が悩んでいる過活動膀胱炎や夜間頻尿は、実は関係が深いことを解説いただきました。また、前立腺がんをロボット支援腹腔鏡手術にて摘出する様子を映した動画も見せていただくなど、大変貴重な講演となりました。

前立腺がんを予防するためには、メタボ予防として減塩と規則的な運動はもちろんのこと、PSA 検査（前立腺がん検査）を受けることが重要です。PSA 検査は佐世保市がん検診\*として当院でも検査が可能ですので、早期発見のために一度検査してみてもはいかがでしょうか。

※ 50 歳以上、男性が対象で予約は必要ありません。



地域医療  
連携室より  
Part.  
31

# 波佐見病院

〒859-3726 東彼杵郡波佐見町榊木場郷792-1

TEL 0956-85-7021

院長 岡崎 敏幸 先生



日ごろより佐世保共済病院の皆様には大変お世話になっています。

当院は焼き物の里、波佐見町に昭和 62 年 5 月にオープンし 30 年になろうとしています。

ベッド数は 154 床(療養病床、介護病床)からなり、その他特別養護老人ホーム、グループホーム、高齢者専用住宅を併設しています。利用者の方々には幅広い医療・介護サービスを提供させて頂いています。

その他透析ベッド 31 床を有し、外来はもとより寝たきりの方も受け入れています。緊急時には佐世保共済病院様をはじめ川棚町や佐世保市内の急性期病院と連携し対応しています。リハビリにも力を入れており、脳血管障害のある方には脳神経外科医と理学療法士が回復のお手伝いをしています。又、近年、血液のがん、乳がんや前立腺がんが増えています。当院では血液内科専門医、乳がん専門外科医、泌尿器科専門医が対応しています。その他内科医を含め 7 名の医師が治療に当たっています。持続点滴、鼻腔、胃瘻からの経管栄養、重症で呼吸管理が必要な方、寝たきりで人工透析が必要な方など幅広く対応しています。外来部門では一般治療の他にデイケア、デイサービスを行っています。



岡崎 敏幸 院長

その他外来通院者に限りませんが、がんの方に対する特殊なケアを行っており、可能な限りの多くの選択治療メニューを提供しています。

全身温熱の一環としては、難病の人が訪れることで有名な秋田県の玉川温泉と同様のラドン岩盤浴を設置しており、当院では治療が目的であるため玉川温泉よりもはるかに多いラドン環境を作り上げています。

今後ともスタッフ一同、地域医療に貢献できるよう又ご要望にできるだけ応えるべく医療環境作りに日々努力をしまいにいたします。

## 趣味を語る バードウォッチング

脳神経外科 山川 勇造

共済病院脳神経外科開設のため平成 12 年に佐世保にやってきました。当地では国道の信号機に「アカハラダカ」の絵と矢印があり、何だろうと思っていると、春にツルの北帰行を目撃しました。石岳の展望所でツルの渡りを、秋には「アカハラダカ」と「ハチクマ」の渡りをみて、野鳥のおもしろさを知りました。佐世保の地は、トリの渡りの交差点(東西-南北の交点)であることを知りました。渡りの季節を教えてもらっているうちに、日本へ来るトリと行くトリは、いずれも繁殖、餌があること、子育てのためであることが分かりました。(※今年度のきょうさいだより表紙写真は山川医師撮影の写真を掲載する予定です。)



鳥帽子岳で野鳥観察中の山川医師

## 編集後記

この時期になると新人職員の多くが入職する時期のため、いつもフレッシュな気持ちになります。創刊以来 16 年目に入りましたが、これからも日々フレッシュなネタ探しを行い、先輩方が築きあげた「きょうさいだより」をしっかり守っていきたいと思います。

編集委員 永田 敬博



# 佐世保共済病院 外来診療担当表

平成 28 年 4 月 1 日現在

科	役職	医師名	月		火		水		木		金		備考 (専門分野・特徴など)
			午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
腎臓内科	部長	福成 健一	●						●				腎臓疾患・人工腎臓
	医長	金谷 晶子			●		●						腎臓疾患
	医員	内海 沙織					●				●		腎臓疾患
	〃	池田 裕貴	●						●				腎臓疾患
循環器内科	部長	金谷 誠司					●		●				循環器疾患
	医員	片伯部幸子	●						●				循環器疾患
	非常勤医	田渕くみ子									●		循環器疾患
	〃	横山 晋二					●						循環器疾患
	〃	溝口ミノリ			●								循環器疾患
	〃	原口 剛									●		循環器疾患
呼吸器内科	非常勤医	高橋 甚彌	●		●								循環器疾患
	〃	柴原 大典									●		呼吸器疾患
糖尿病内科	〃	榎津 愛実					●						呼吸器疾患
	非常勤医	牟田 芳美						▲	▲				▲は第2・4週のみ診察を行います
消化器内科	院長	井口 東郎					●		■				膵がん・胆道がん ■は紹介患者のみの受付になります
	部長	河野 健次			●		●						肝臓疾患
	内視鏡センター長	宿輪 三郎	●								●		消化器内科疾患
	部長	丸山 祐二	●						●				消化器内科疾患・消化器がん
消化器センター					●						●		(診療内容) 上部・下部消化管、肝・胆・膵疾患の検査及び治療
					富崎						井原		
外科	副院長	井原 司					●		●				消化器外科・肝胆膵臓外科・内視鏡下外科・一般外科
	部長	原田 洋			●						●		消化器外科・乳腺外科・一般外科
	〃	富崎 真一	●				●						消化器外科・内視鏡下外科・一般外科
	医長	三笠 圭太	●		●						●		血管外科・一般外科
	医員	高木 克明			●						●		消化器外科・肝胆膵臓外科・一般外科
	〃	野口 亮志	●				●		●				一般外科 (4~6月のみ月曜日担当になります)
	非常勤医	川畑 方博					●						肝胆膵臓外科・消化器外科・一般外科
乳腺外来			●		●		●		●				※乳癌検診は、10時までに受付を行って下さい (要予約)
			高木		野口		原田		原田				
小児科	診療部長	岡 尚記			●				●				小児アレルギー疾患、気管支喘息、小児一般
	部長	上玉利 彰	●				●				●		小児血液、小児癌、小児一般
	アレルギーセンター長	合田 裕治	●		●		●		●		●		小児アレルギー疾患、食物アレルギー、小児一般、気管支喘息
	乳児健診				●								火曜 午後1時から診察開始 午後2時までに受付を行って下さい
	慢性外来							●					水曜 午後2時から診察開始
	喘息外来									●			木曜 午後2時から診察開始
整形外科	顧問	萩原 博嗣	●								●		膝・股関節疾患、人工関節置換術、骨折、スポーツ障害、小児整形外科
	部長	水城 安尋			●		●				●		上肢の外科 (肩肘手)、足部外科 (外反母趾等)、スポーツ障害
	医員	佐々木 大	●				●		●				膝股関節疾患、スポーツ障害、骨軟部腫瘍
	〃	内村 大輝			●				●		●		上肢の外科 (肩肘手)、スポーツ障害
	〃	上田 幸輝	●				●				●		膝・股関節疾患
	〃	富田 哲也			●		●		●				整形外科一般
	〃	大迫 浩平	●		●				●				整形外科一般
〃	山下 実砂											整形外科一般	
泌尿器科	診療部長	江口 二郎	※		●				●				尿路結石、尿路生殖器腫瘍、排尿障害、尿路感染、男性不妊 (江口)
	部長	中村 貴生	※		●			●		●			※の第2・4週 (江口) 第1・3・5週 (中村) が診察を行います
	医員	湯野 努	●				●				●		
産婦人科	部長	鶴地 伸宏	●		■		●		●				産科・周産期医療、不妊症・内分泌疾患
	〃	木下秀一郎			●		●		■		●		腹腔鏡下手術、更年期・婦人科疾患
	〃	松隈 敬太							●				●：婦人科診療日 ■：産科診療日
	医員	末永 壮賢	●		●				※		■		※の第2・4週 (末永) 第1・3・5週 (柿添) が診察を行います
眼科	〃	柿添 絵里	●■				■		※		●		
	医長	原 潤	●		●	※	●	※	●		●	※	白内障手術、緑内障手術、硝子体手術、翼状片手術、レーザー光凝固術
		※：火・水・金曜の午後は術前検査と特殊再来 (要連絡)											
耳鼻咽喉科	部長	田浦 政彦	●		●		●		●		●		頭頸部腫瘍、嚥下障害、耳・鼻・咽喉頭・頸部などの手術
	医長	加藤 明子	●		●		●		●		●		
放射線科	部長	野々下政昭	※検査・画像診断についてのお申し込み・お問合せは、外来までお電話下さい。									MRI、CT、RI、血管造影、超音波検査	
	医員	梶原 寿浩											
	〃	椿 史裕											
麻酔科	部長	深野 拓	●		●						●		月～金午前ペイン・緩和ケア外来
	医長	木本 文子			●		●		●				月～金午後は手術麻酔
	医員	佐々木 馨詩子											
	非常勤医	別府 幸岐											
病理診断科	顧問	井関 充及											細胞診断・病理組織診断全般
歯科口腔外科	部長	窪田 泰孝	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	歯科口腔外科、インプラント、顎顔面外傷、顎関節症、口腔腫瘍
	医員	藤永 貴大	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	菌性感染症など
	研修医	濱田 雄太	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
健診センター	部長	佐藤 浩信	※お申し込み・お問い合わせは、健診センターまでお電話下さい。健診センター直通電話 0956-22-6155										
	医長	原 敬一											